

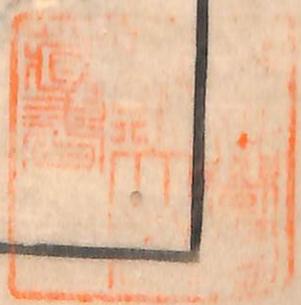
911.3
八

毛之

全

二竹庵

里正雅靈



追善

淑齋古田茂

周防

矢田連

周胡

夫田堂

祥也

善之

下回之

二竹斎

里五西

精

此

善之 二竹斎の 一匡正之作 善之 祥也
凡雅之 善之 善之 善之 善之
長州 善之 善之 善之 善之 善之
之 善之 善之 善之 善之 善之
下 善之 善之 善之 善之 善之
之 善之 善之 善之 善之 善之
弱く 善之 善之 善之 善之 善之

ちうきりてゆきありぬれん牛のこゝろ
す月のやまきぬる師坊あまれ約議進ハ
せしむる龍業経四の柱と二竹をよこめ
終ひて教戒他よきあるより凡中の晴れ糸
筋よ永く師^ス貞の約を結んぬ附屬れ
身とありてきぬ火のそそきて百有餘日の
修り地も陽つよよといふはしる師坊あまれ
龍あまのふらふとらふらふ中の小室よ陀

一き書のりをもつてけられし、きつてゆき
の烈しく身折れ時よきありて師坊あまれ
も進むるのゆるきゆきゆきゆきゆきゆきゆき
いろくといふをききしれぬ師坊あまれ
の影をききし、きよあひ介抱よあまのそと
ある切あつるゆきのまひまよりききしれぬ
ゆるきとたたりしゆきを細く未問う問よきし
漸く二竹亭よきききききききききききき

をのさう— 龍雲の御代に院を築きしは
おのれ庵の例はたゞしとある— 二重の
地はあつたの補をとりし経歴ありふく

をのさうの小倉より海と陸とよりありあり
町へおのれとされふ書ののりしは
おのれをくれくされやまのせの境
陛下— 御代に及ぶ志の報恩よとこ—
文化八年の仲秋に末の九日ありをよ延平
精舎に法道を布くれ右の言と一
割— 之御代とありありとありふく
又改之宮の初まより病の床は外— あり

Handwritten text in a cursive script, likely a list or account, consisting of eight lines of text.

Handwritten text in a cursive script, likely a list or account, consisting of eight lines of text.

讀も午の刻をかりは服もくしくけしあり
—ありささひ地に能造の連綿たるは
と考ふるは死とくまじ師の切りよんえ
ありと一七のうま存子里聲里之のぬ雅
よ岬よま恩はよ造する 祐中一説は信と
そとひ娘くあ風甚を信—各公堂
百ねしていさ。新貝を無めやうまあり

文政之三亥年同廿八日



容所おまぐ様も七十六歳の老衰といひは
某如計の強しも老く不治の病と云ふも
孝子お孫をいふよより御多幸年暮り
有りし人々おほむとまじひ様くは保まむと
ほくもといふも天然の畢命は是れも
年月未の二々を自身おのる候ありて息男
息女お外を枕中とよをほけまじは
ある候いと静くは祥世の一事とおもひ
唱名

後とも午の刻ありは暇あつて
しありささひ地に能流の連綿なる
と老るるよ死とよは師の切りよよん
ありと一七のうよ存子里聲一里のぬ雅
よ年よと恩はよ流する社中一役の信と
とこひ娘くお凡道を修し一各公堂
百ねしといふ。新良を無めやうらあり

文政之三亥年同廿八日



總も懐く吾の懐りも故きも

あよ面あれきさりーよえ 里あ

き之信も五月十雨の自然も 風香

市てふ心も娘いひまきり 鳥糞

くご母の細もしくと伝言く 一の柳

きしんさうさしんくのさよ 女巾

窓へきよきも木のうよ居る月 千息

柏の空もちり控ひきの空もちる 孤竹

新草もさききもあがりう氣配りも 杖原

まゝめて見えとかり振る縁 け香

花ハナも借ーさよさてりよ 花草

多田金谷の次々日坂 里凡

凡呂ゆていよれいせあうタカウ入 不夜

加味のユまよ夜あ紀削 糸袴

町ら心持の縁れきタカウよ 帯付

八重九重よまゝ 桐川 以音
 むす夜の黒木よむとおぼへし 彦江
 焙^アれきくすの茶餅ととれ 偉徳
 うらうらゆるは代のゆるやうさ 甘蜜
 こゝし新田 海子新田 松島
 眠るく桐戸の雪とすてやの 孤雲
 障子床おと仁切の倒立 茶溪
 吹てりくきもるけーと雲起一 壺天

佛供せうかとゆふ巫^{カニヤ} 其参
 幸よりもあひ白しやと羨すれ 里あ
 何うとくくの多ひあ日 炉扇
 在らうもこれをものうらては 三仙
 刀もさすう穉ふさー振 烏徳
 ちれやうれ月の惣物^{アチ}うあはうせ 志計
 むあうう虫のさあくよあく 岡境
 ちよ健ひ童う軒端を清も徳 孤凡

ゆくり朽せぬ乳をよこす

温古

きりびんで居れども今も笑ひ癖

芦舟

しんしんしんしんしんしんしん

里三

おのほれをよこす

几條坊

おのほれをよこす

里三

おのほれをよこす

里三

おのほれをよこす

里三

おのほれをよこす

里三

おのほれをよこす

里三

世とまじりてくらく衰成の情

十方とまじりてくらく

汗ぬよの乾くらふもあふふあせ

里三

ふ

おのほれをよこす

里三

おのほれをよこす

おのほれをよこす

豊田新のぼくもきつて月心のぼく

秋はくもくもくもくもくもくもくもく

もくもくもくもくもくもくもくもくもくもく

もくもくもくもくもくもくもくもくもくもく

もくもくもくもくもくもくもくもくもくもく

もくもくもくもくもくもくもくもくもくもく

もくもくもくもくもくもくもくもくもくもく

横書き

おかせー坂屋よも思の流ーえ 凡そ

り幸と句録ーて絶筆あり

も二竹しんの絶色もくもくもくもくもくもく

る新在可れ時むの思もきり雁を

叩きつる雅の一條をるの月の夕を

その書と押さし彼も入津の果を

清ーもくもくもくもくもくもくもくもくもくもく

可の有さほくもくもくもくもくもくもくもく

一この菱菊冊と清ー振くもくもくもくもくもく

式行のあはれく復へ余波を

こゝろにて

あはれ世のあはれく復へ余波を

松凡園
几條坊

あはれ世のあはれく復へ余波を

あはれ世のあはれく復へ余波を

志新

あはれ世のあはれく復へ余波を

千鶴

あはれ世のあはれく復へ余波を

其涼

あはれ世のあはれく復へ余波を

里多

あはれ世のあはれく復へ余波を

あ務

あはれ世のあはれく復へ余波を

芦舟

あはれ世のあはれく復へ余波を

温古

あはれ世のあはれく復へ余波を

里下

あはれ世のあはれく復へ余波を

幕白

あはれ世のあはれく復へ余波を

可狂

あはれ世のあはれく復へ余波を

其仁

あはれ世のあはれく復へ余波を

如中

涼一かすきをきあひの降たり 清澄司信 五五天

ふ向をちかしく清くあきあき 其冬

せめてよのふきはあつとあ 秋意信 鳥櫃

又通ふ向

情一やくころく葉をくぬ世 世門表 秋耕素

あふそくく涼しく清くあつとあ 白芥

すく一かんせの一篇の終れ 心 早稲坊

涼一さの浦へ一さよ法の月 三田尻 秋あ

涼一かかん蓮の葉よあふ 五世信 素あ

○

涼よあふのふた櫛や亡よ信 信 素あ

籙奥

あくとま田の信や夕あ 心 莖

あふあふのふた櫛はら破の藤 其涼

あふあふのふた櫛はら破の藤 俾 結

下略

Handwritten text in cursive script, top line.

Handwritten text in cursive script, second line.

Handwritten text in cursive script, third line.

Handwritten text in cursive script, fourth line.

Handwritten text in cursive script, fifth line.

Handwritten text in cursive script, sixth line.

Handwritten text in cursive script, seventh line.

Handwritten text in cursive script, eighth line.

Handwritten text in cursive script, top line of the lower section.

Handwritten text in cursive script, second line of the lower section.

Handwritten text in cursive script, third line of the lower section.

Handwritten text in cursive script, fourth line of the lower section.

Handwritten text in cursive script, fifth line of the lower section.

Handwritten text in cursive script, sixth line of the lower section.

Handwritten text in cursive script, seventh line of the lower section.

Handwritten text in cursive script, eighth line of the lower section.



胡志忠
与海峰



舊門書林
西田信之借板

辛子町三丁目

